

慶長遣欧使節出帆400年記念事業実行委員会設立趣意書

・2013年（平成25年）は、慶長遣欧使節船「サン・ファン・バウティスタ号」が1613年（慶長18年）10月28日、支倉常長ら一行を乗せ、ヨーロッパに向け石巻月浦を出帆してから400年の節目を迎える年である。

・17世紀初頭の江戸時代に、慶長遣欧使節が日本の外交使節として初めてヨーロッパに渡ったという事実は、歴史的偉業として日本の外交史に位置づけられており、県民の先取の気概の象徴ともなっている。

・また、出帆する2年前の1611年には三陸地震が発生しており、その大津波（慶長三陸地震津波）により三陸沿岸一帯は大きな被害を受けたが、震災からの復旧に取り組む中、「サン・ファン・バウティスタ号」を建造し、震災の発生からわずか2年後に慶長遣欧使節をヨーロッパに派遣したという事実が、今クローズアップされている。

・このため、400年の節目を機に、慶長遣欧使節が果たした役割を現代的な視点から改めて評価するとともに、その意義を国内外へ広く発信し、若い世代、未来へと引き継いでいくため、関係団体が連携・協力して「慶長遣欧使節出帆400年記念事業実行委員会」を組織し、記念の事業を行うものである。

・なお、東日本大震災からの復興という状況にある中で、400年の記念事業を行うことは、宮城が「元気」と「輝き」を取り戻す大きなエネルギーともなるものである。

□慶長遣欧使節とは？

今から約400年前の1613年（慶長18年）、仙台藩主伊達政宗が、仙台領内でのキリスト教布教容認と引き換えにノビスパニア（メキシコ）との直接貿易を求めて、イスパニア（スペイン）国王およびローマ教皇のもとに派遣した使節です。

使節に選ばれた家臣支倉常長は、宣教師ルイス・ソテロとともに、仙台藩内で建造された洋式帆船「サン・ファン・バウティスタ」で太平洋を渡りました。メキシコを経てイスパニアに至り国王フェリペ3世に謁見、さらにローマに入り教皇パウロ5世に拝謁しましたが、幕府のキリスト教弾圧などから目的を達することができず、7年後の1620年、常長は帰仙しました。（宮城県慶長使節船ミュージアムホームページより）